

行政の手ぬき、怠慢、無策ではないかと思う。もしもボランティアに依存せざるをえないのなら有償化が望ましい。・少なくとも三浦市においては市側の頭を柔軟にする必要がある。縦割り行政も良いかも知れないが、もっと横との連携がスムーズになるように、システム化を図ってほしい。いずれにせよ現段階では役割分担は不可能なのは。・ボランティアに依存することは必要とされると思う。但し行政等が実施する事業はあくまで施策として行ない、「福祉の時代」とか「ボランティア活動」とかムードにたよらないで行政としての責任を果たすべきである。本来ボランティアは個人の善意によって行われるものなので、社協（ボランティアセンター）の事業としてあくまでも民間ベースで進めてはどうか。・その場のもてる機能を発揮し、必要、不必要にかかわらず協力体制はとっていくものと考えて。システム化、マネジメントは社協がとってほしい。・三浦市は他市からみるとボランティアの育成が遅れている様に思います。他市では、市民の中から有志者のリードによりかなりボランティア活動が行なわれているようです。まず社協がその先頭に立って活動して下さい。・各地域の自治会、学校組織等に働きかけていく役割を行政が、そして福祉実践力の養成事業については、施設が担っていくべきだと思う。・地域社会を支える仕組みをつくりあげるために関係団体が相互乗り入れをし連携を密にする必要があると思う。・ボランティア関心を持っている方は多いと思います。何を、いつ、誰に、どんな風に、の不明確さが行動にならない一因ではないでしょうか。広報活動の不満を感じます。また既存団体（婦人会、老人クラブ、母の会等）への協力依頼も必要なのでは。・一朝一夕に確立するものではありませんが、冒頭の様な体系づくりを是非したいと思います。具体的方法としては、草の根運動的に小学校や幼稚園の児童園児を対象に取り組んでも良いと思う。特に小学校では次年度より、社会と理科が合併され生活科となるので利用すると良いでしょう。

マンパワーも福祉の心も早い時期にとりかかることが必要です。・システム化を図っていく必要がある。・役割分担の明確化は必要と思われるが、細かくしすぎると、歯車があわなくなってしまうと思う。再三の検討が必要でしょう。・地域福祉の担い手は社協であると考えますので、社協でもっと積極的に具体的な事業にお取り組み願いたい。その過程の中で設問の関係者の問題も自づと発生し、解決は図られていくと思います。・あまり難しいことはわからない。

ただ施設等をつくり育成するのはやりすぎだと思う。なるべくお金をかけずに。 ・公的施設ならば、若いボランティアに活動の場を提供するのはある程度やむをえないが、入所者にとってはその施設が自分の家なのだから、外部の人の出入りは迷惑なのではないでしょうか。特に中・高校生の訪問にはお年寄りが逆に気を使っているようです。（幼稚園生や小学生、社会人の方がまだ良い。）いずれにせよおなじみさんが継続して来て下さるのが一番良いようです。また地域について考えると、独居老人のMAPを作成する等、近隣の援助がえられるようなシステムの構築を求めます。 ・ハンディキャップのある者、高齢者を社会と切り離していくのではなく、こうした人々と身近に接しながら社会性をつちかうには、小さい頃より一貫した人間教育が必要だと思います。社会の中でまず、地域を母体に学校、家庭または団体等の明確な役割分担と組織化が必要だと思います。 ・障害を持った人達が身近にいるという場面が少なく、理解するという事は難しいと思います。接するという事で理解も深まると思うので、小さい頃より知り会える機会を持つ事が必要でしょう。 ・ボランティアの育成活動は福祉に対していろいろ人がかかわることによって成り立つものだと思います。今後、市・社協を含む関係団体が連携をとりながら、あらゆる行事、イベントに福祉的機能を付帯させることが必要でしょう。 ・ボランティア活動の進んだ地方自治体を参考にしたら良いと思う。 ・育成の母体は社協に担ってもらいたいと思います。育成中の技術提供、場の確保については行政が担う。 ・社協を中心に実技を取入れる様な育成をしていただきたい。

〔問一六〕 今まで仕事をしてきた中で、本当に必要性を感じたボラ活動をお聞かせ下さい。（４５人から記載があった。）

・一人暮らし老人の安否確認 ４人 ・特になし  
 ・地域サービス ・ホームヘルパー的なボランティア  
 ・重度障害者等の送迎 ４人 ・配食サービス、家事援助、留守番  
 ５人 ・リハビリテーション活動 ２人 ・在宅療養者への日常生活  
 援助・民生委員活動等は、その地域への貢献度を考えると本当に必要性を感じます。 ・「ボランティア活動」ではありませんが。社協さんに早く住民参加型のヘルパー事業をつくってもらい、介護者が息

がぬける様な痴呆性老人宅への留守番ヘルパー、託老所対応ヘルパー、乳幼児家庭病気世帯への家事援助等が、可能となれば良いと思います。

- ・市内に親類縁者のいない家庭（老若男女を問わず）に対する支援援助。
- ・地域全体を把握（ニーズ発掘）するボランティア。例えば各地域の民生委員を中心に隣組長を集い、会合を月1回程度もつ。隣組長は一年交代の順番性なので、市民の目を福祉に向ける効果がある。また福祉サービスの対象が正確にもれなく把握できると考える。こうした活動が「地域ぐるみで行なう福祉」の出発点になるのでは。
- ・在宅療養者の話し相手。通院時の付添い。散歩や外出時の介助。介護者外出時のオムツ交換（留守番）。サービス事業の手伝い2人
- ・入浴時の介助。常時介護を要する療養者（児）を持つ家庭での留守番2人
- ・母親の緊急入院時に子供（幼児）の世話をしてくれるボランティア。
- ・高齢者等の退院直後の身の回りの世話。
- ・休日休暇のない介護者に休みを与えたいと思った時 2人
- ・「介護教室」等介護者を対象とした事業を実施する際ネックとなるのが、介護者の外出時に誰が療養者等の世話をするかということです。そこで、こうした世帯への留守番ボランティアや、会場に託児所等を設置した際の介助ボランティアを強く求めたい。但し、これからは全て民間ベースの事業として行なわれる場合を指すものであり、公的事業の場合にはボランティアをあてにするにも限度があるものと思う。
- ・福祉施設の清掃、ワックスぬり、障子はり等 2人
- ・施設においては老人処遇向上のために、掃除・洗濯のボランティアが必要かと思っています。
- ・理髪 4人
- ・運転ボランティア
- ・心配ごと相談ボランティア
- ・専門性（音楽。絵画・書道）を持ったボランティア活動
- ・美山まつり 2人
- ・買い物ボランティア
- ・園児数の増加に伴い食事・手洗い・トイレなどマンツーマンの対応がふさわしい時にも手がまわらない現状にあります。たまにお手伝いして下さる方がいると良いのですが。

〔問一七〕 現在ケースとの関わりの中で、必要とされるボランティアがありましたらそのケースの概要を含めて具体的にお聞かせ下さい。

・特になし 2人 ・話し相手ボランティア 4人 ・PTのリハビリティボランティア  
・理髪・美容 2人 ・車椅子使用者の付添い 2人  
・はまゆう作業所では農作業も行なっているが、その場合の農耕、植え付け、施肥等の労働作業や各所で行なわれる地域バザーの搬入、搬出、販売ボランティア 5人  
・現在ホームヘルプサービスを提供している全盲女性（1才の乳児あり日中は市外からケースの実母が毎日来訪している。）に対して、同世代（友人的）のボランティアを望む。ヘルパーにはどうしても業務上の制約がつきまとうし、失言等ミスも許されない。しかしケースが社会性を取り戻すには、誰もが日常の中で感じる対人関係上の“わずらわしさ”等も必須のものとなってくる。そこで、互いに励まし合いまた時には迷惑をかけ合える友人が必要となる。それも単なる友人ではなくケースのハンディについて深い理解を示してくれる同年代（友人的）なボランティアが望ましい。  
・介護者が高齢なので入浴時の介助ボラが必要3人（ヘルパーから）  
・歩行、排泄、食事介助ボランティア  
・一人暮らしの虚弱性老人等安否確認ボランティア  
・リハ教室等の送迎ボランティア  
・外出時の付添い介助ボランティア  
・専門性（音楽・絵画・書道等）を持った指導ボラ。年長者の中にはより深層部でかかわり成長したいと思っている人がいる。

〔問一八〕 あなたのボランティアに対する考えをご自分で自由にお書き下さい。（51人から記載があった。）

・地域で行なわれているボランティア活動をサービス協会で実施している各事業につなぎ、一般市民のニーズに対応できるようにされたい。また啓発事業の強化を社協に望む。  
・万一の事故対策を講じられたし。  
・ボランティアをするだけの余裕がほしい。  
・ボランティアとは思いやりの精神、「出来る時」に「出来ること」をモットーにしたい。3人  
・これからは老人や障害者の方々にたくさんの援助が必要です。ボランティアの方も1日の労働をその方々に提供するので、当然報酬をもらう資格があると思います。社協の活動も活発にして下さい。  
・ボランティアの育成も大切だが、その前に施設・病院の増設が必要だと思う。  
・ボランティアは束縛されないが、その活動には責任を持ってほしい

また活動に参加するにあたっては、何回も社協のコーディネーターと  
ディスカッションし、コーディネーターは登録者の気持ちを大切に長く活動  
できるような配慮してほしい。 ・私の認識不足かも知れませんが、どの部門に  
どのようなボランティアが必要なのか、ニーズの把握システムの確立がなされて  
いないと思います。またPRも不足していると思います。活動意欲はあっても参加  
方法や窓口のわからない人が多いようです。2人 ・個人ボランティア登録者の方  
には、必ず1ヶ月に1回以上のボランティア活動を実践していただくように、でき  
ればルール化してもらい、実践ボラ養成をすすめていただきたい。

・今は自分のことで精一杯の状態であまりのことまで目が届かないのが  
実際で、自分が参加できるかと問われると、わからないとしか言えないと思  
う。利益のみを追及する風潮が多い現在、大変な事もあると思いますが、頑  
張って下さい。 ・ボランティアとは何かを知らせるその前に、市と社協  
でおおむねの意見統一する。あたえる福祉からみんなでつくり出す福祉の  
創造に努めたい。 ・助け合いの精神は大人になってから培われるものではない。  
家庭教育、学校教育、社会教育の中で三浦市民全体の問題として、自発的に  
活動できるよう長い時間をかけて土壌をつくり上げる必要がある。 ・言葉が  
表わすとおり、福祉への自発的な(ボランティア)参加意識を持つこと、持っ  
てもらうことが大切です。 ・ボランティアとは福祉の心を持つ人から出てくる  
行為であると思う。 ・ボランティアとは身体でやるのではなく心身でやるもの  
ではないだろうか。 ・私は施設の職員で、現在まだボランティア活動をする時  
間の余裕はないが、三浦市の現状を見てもっと市民に何らかの方法で強力に  
働きかけをして、将来へ向かってボランティア育成を早急に進める必要があ  
ると思います。在宅介護者の方に少しの外出の時間や、入浴介助などの協  
力依頼など市民にもっと積極的に協力を呼びかけて下さい。行政はなまぬ  
ると思います。 ・現在ボーイスカウトが構成されているが、この団体を  
通じてゴールドボーイスカウト、ゴールドガールスカウトの様な団体を構  
成したらどうでしょう。 ・人々の善意のみに頼るのはこれからの時代にそ  
ぐはない。ボランティア活動に要する諸経費は行政サイドで十分に負担す  
べきである。また社協にボランティア担当の専任者を設置する必要がある。  
 ・社協理事は実働できる人を選び即地域または福祉団体につなげる。 ・ボ  
ランティア育成事業は、三浦市の生活レベル、福祉意識の水準などに深い  
かかわりがあり、生